

オランダ ジャック・ピー・ティッセ・カレッジ 橋本 さん

留学期間：R3.10～R.4.7（1年間）

僕は2021年の10月から、オランダの北ホランド州にある Jac.P.Thijssse collegeに通っています。この学校には、11歳から18歳の約2000人の生徒が通っていて、僕は5VWOという学年で、勉強しています。僕の住んでいる場所は、アムステルダムから約30～40kmの場所ですが、周りには、森があったり、海岸があったりと、意外と自然に囲まれています。

オランダに来て、最初の1週間は、アムステルダムでオリエンテーションがあり、いろいろな国からの交換留学生と様々なアクティビティをしました。1週間を通して自分達の国についてたくさん話す機会があったり、一緒にオランダ語を学ぶ機会があったりしてとても良い経験になりました。

オランダに来て生活してみて、感じたことは、オランダ人のほとんどが、とても流暢な英語を喋れるということです。学校にいてもオランダ語と英語を混ぜた会話を聞くことがあり、とてもびっくりしました。それもあり、最初の方は、英語に頼ってしまうことがあったけれど、今では、なるべくオランダ語でコミュニケーションをとることを心がけています。

また、オランダでは、環境を守る取り組みが活発だと感じました。例えば、公共のバスが、電気で動いていたり、海岸から、海の上に風力発電を見ることができたりして、環境に対する取り組みを肌で感じることができました。そして、自転車大国ということもあり、どこへ行っても、自転車に乗っている人を見かけます。僕も、オランダで自転車に乗っているのですが、日本と比べて、自転車専用道路があったり、自転車が最優先だったり、とてもルールが整っていて、とても自転車に乗りやすいです。

コロナへの対応も日本と比べて、全く異なっていてとても驚きました。オランダに来て、最初の方は感染者も少なく、マスクを外して生活することができていました。しかし、11月くらいになると、感染者が増えて、飲食店などの営業時間が短くなったり、店の中でのマスクの着用が義務付けられたりしました。そして、12月になるとほとんどのお店が5時までの営業になって、行動が制限されるようになりました。オランダでは、飲食店などの感染のリスクがあるところでは、ワクチン接種証明や陰性証明のQRコードを見せないといけませんが、それでも感染は抑えられないのだと思



学校



オリエンテーション



ホストマザーと近くの砂丘で



他の留学生とアムステルダムでスケート

いました。そして、12月19日からは、本格的なロックダウンになり、学校や、スーパー以外の店が閉鎖されました。

最初の1週間が過ぎると、オランダでの本格的な生活が始まりました。しかし、日本出発が遅れたこともあり、3日で秋休みになり、その後すぐにテスト週間になってしまい、実際の学校生活が始まるのが遅くなってしまいました。しかし、本格的に学校が始まると、日本の学校との違いを実感しました。学校の授業は、英語以外全てオランダ語で行われていて、僕はとても理解に苦しんでいるのですが、近くにいる他の生徒たちが、何をしているのかを、英語に翻訳してくれたりしてとてもお

世話になっています。また、授業では、ほとんどの生徒が、質問を積極的にしていて新鮮に感じました。

オランダに来て、約三ヶ月が経って、学校で習ったことのない言語を使うということもあり、苦労することがたくさんありますが、このとても貴重な機会と経験を与えて応援して下さるふるさと納税寄付者をはじめとしたすべての人に感謝して、残りのオランダでの留学生生活を無駄にして後悔することのないように、全力を尽くして最後まで頑張っていこうと思います。



ホストファミリー



教会の前で